

# 投稿

## 天文系の絵本を求めて

塚田 健（東京学芸大学／天文学とプラネタリウム）

### 1. はじめに

本誌に嶺重氏からの報告が掲載されていると思うが、そもそもこの話は、嶺重 慎、高橋 淳、高梨直紘各氏と私で日本医科歯科大学附属病院を訪問したことにはじまる。病院内には子どもたちが自由に遊べる「プレイルーム」という場所があり、そこでは本も自由に読めるようになっていたのだが、本そのものがありあまり揃えられていなかった。以前から病院の待合室などに子ども向けの天文の本を置いたら・・・という話があり、また、幸い病院側からも書籍の寄付は大歓迎との話を伺ったので、さっそく「天文学とプラネタリウム」（以下「天プラ」、「天プラ」についてはホームページ <http://www.tenpla.net> を参照）のメーリングリストにおいて、児童病棟への本の寄付について呼びかけてみた。するとメンバーからは多くの反応があった。

### 2. 少ない「天文絵本」

病院への本の寄付についての話題が盛り上がる中、私は常々「天文の絵本・児童書、特に絵本が実は少ないのではないか？」と思っていたこともあり、「天プラ」及び本会のメーリングリストで天文絵本の情報を募集してみることにした。

私がなぜ天文の絵本が少ないと思うようになったかという、私が所属している科学の本の読み聞かせの会「ほんとほんと」で天文関係の本を使って読み聞かせを行った際に、読み聞かせできるような本が見当たらずに苦労した覚えがあったからである。絵本でもっとも多く見つかるのが生物関係、それも動植物を扱ったものであり、また物理や化学を扱ったものも意外に多い。しかし、地学関係

となるとやはり少なくなり、天文もその例に洩れないのである。

メーリングリストに呼びかけるとすぐに反応があり、私が知らないものも含めて多くの天文絵本・児童書の情報が寄せられた。紹介された本の情報は次の web を参照してほしい。

<http://www.tenpla.net/php/book/>

寄せられた情報を見てみると、「星・星座」を扱っているもの（例：『星座を見つけよう』[1]）、「太陽・月」を扱っているもの（例：『太陽をかこう』[2]）、「その他」（例：『おそらにはてはあるの?』[3]）に大別できることがわかる。星座や太陽・月に比べて、恒星の一生や銀河、宇宙論関係は、絵本の題材として扱いにくいせいも、やはり数が少ない。

### 3. なければ作ればいい

天文の絵本が少ないのなら、こちらで作れないか？という意見も出た。実際に絵本にしたい題材をもっている、というメンバーからの話もあり、東京学芸大学や愛知教育大学などの天文サークルであれば国語科や美術科などのメンバーも多いので、独自に絵本を作るのではないかと、という話もあった。

また、大学において文系の学生向けのレポートとして天文絵本の製作を課した慶応大学の加藤万里子さんの例もあり[4]、「絵本を作らせたり、一般／子ども向け一枚ポスターを作らせたりということをとときどきやっています。」という情報も頂いた。教育系大学の教養の授業で天文を履修する学生のレポートとして製作することや、美術系大学／専門学校で授業の一環として製作する、小中学校で

理科／美術（図工）の授業の課題として製作するなどの試みも考えられる。

#### 4. 天文絵本の普及を

天文関係の絵本・児童書に対する関心はメーリングリストでの反応を見る限り高く、「良質な書がもっともっと世に出て欲しいと思っています。宇宙科学に関する本は、昔と比べると格段に種類が増えましたが、児童書のコーナーでは、数えるほどしか見かけません。」など、様々なご意見を頂いた。

また、プラネタリウムで絵本の読み聞かせをやっている館もあるようで、児童病棟などでは「『あのとのお兄さん、お姉さんが読んでくれた本』という感じで、また違った親しみを覚えてくれたり・・・そういう所から天文に興味を湧いてくれたら素敵だなあって思います。」とか、「私もひとりひとりに読んであげられたらなと思います。読んでるとちょっとした質問にも答えてあげられますし。なにより、入院中はさびしいので人とお話しすることが楽しくって仕方がなかった気がします。絵本とまではいなくても、手作りの天体の写真集(描いた絵でもいいと思います)を見せながら、どんな星なのかとかお話ししてあげるのもいいのではないかなと思います。」など、天文絵本の読み聞かせについても多くの提言を頂いた。

私たち「天プラ」でも、これから実践に取り組んでいきたいと考えており、また同様の活動を全国へ広げていきたいと考えている。このような活動を行っている、あるいは知っているという方は、ぜひ報告していただきたい。

このような活動を広げるためには、そして天文の絵本・児童書を増やしていくためには、広くどのような天文絵本・児童書があるのかということを知ることが必要であり、また、一般に広めて行く必要があると考える。メー

リングリスト上でそのことについても触れたところ、6月に開催される本会関東支部研究集会以て試験的に絵本・児童書の展示を行えることとなった。これをさらに発展させ、年会でも行いたいと考えている。将来的には書店や図書館など、もっと一般の方たちの身近なところでぜひとも行いたいところである。

#### 5. おわりに

今回「天プラ」で作成した本のリストは、ぜひ皆さんにも活用していただきたいし、今後もさらに絵本・児童書についての情報を集めていきたいと考えているので、本の情報、読み聞かせ等の活動の情報をお持ちの方は、ぜひお寄せいただきたい。また、ここで述べた絵本・児童書に関する議論について、異論等を含め様々なご意見をいただきたいと思う。

#### 参考文献等

- [1] H.A.レイ文・絵、草下英明訳、福音館書店
- [2] ブルーノ・ムナーリ著、須賀敦子訳、至光社
- [3] 佐治晴夫著、井川洋二絵、玉川大学出版部
- [4] <http://sunrise.hc.keio.ac.jp/~mariko/educ/gakkai961.html>